

ぐりふぁん letter



Vol.
47
2024.2

INDEX

- ◆ おひさまプロジェクト、2024年度は・・・
急増する再生可能エネルギー出力制御と今後の見通し ……2
- ◆ <COP28参加報告>
脱化石燃料に向けて国際社会が一步を踏み出す ……4
- ◆ ウトロ平和祈念館
おひさま発電所見学のご感想 ……5
- ◆ 2023年度 環境学習 ……6
- ◆ 会員さん、こんにちは！
メーリングリスト登録のお願い
編集後記 ……7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)





おひさまプロジェクト、2024年度は・・・

2023年度、おひさまプロジェクトは2カ所の保育施設への設置をすすめていましたが、2024年の設置になりそうです。今までは、割合スムーズに補助金の交付を受けてこれでしたが、2023年度は今までになく出足が早かったようで、夏を過ぎたころには終了となってしまっていました。太陽光発電設備がそれだけ普及したとも考えられるのですが。

おひさまプロジェクトを進めるにあたり、最初の関門が設置施設を見つけることです。京都市内や近隣市町の保育施設には、毎年、設置施設募集のチラシやおひさま発電所についての資料をお送りしていますが、なかなか応募がないのが、現状です。どうしてなのか？話し合いを続けるなかで、実際に太陽光発電パネルを設置している保育施設はどれくらいあるのかという疑問が浮かんできました。そこで、自分たちで調べてみようということになりました。京都市内の保育施設をきょうとグリーンファンド理事、事務局、そして気候ネットワークさんにもご協力いただき、GoogleMapの航空写真を使い、調査しました。

結果は下記のようにになりました。太陽光発電設備が設置されている施設は、わずかに12%、ポテンシャルは、約1万kWにのぼりました。あくまでGoogleMapでの調査なので、実際に現地調査してみないと正確にはわかりませんが、約半分ぐらいのポテンシャルではないかと推測されます。

※その他事由・閉園・不明・設置条件判定 不良 など

	調査件数	おひさま 発電所	おひさま発電所 設置予定	太陽光発電 設置済	太陽光発電 設置予定	その他事由※	太陽光発電設置 可能施設	太陽光発電設置 可能容量 (kW)
幼稚園	100	3	1	6		8	82	3,628
保育・こども園	266	10	1	23	1	27	204	7,090

[調査結果] ・ポテンシャル(太陽光発電設置可能容量) 幼稚園 3,608kW 保育・こども園 7,090kW
・太陽光発電設置済施設(予定を含む) 幼稚園 10ヶ所 保育・こども園 34ヶ所

[調査要領] : パソコンのGoogleMap ソフト等を使い、以下の点をチェックしています。

*太陽光発電設備設置の有無 *屋根面積測定 *太陽電池設置可能容量(エクセルで自動計算)

*建物形状(傾斜屋根、陸屋根など) *屋根面方位(南、南東、東など) *障害物(日影など) *設置条件判定

(きょうとグリーンファンド 北川 井子)

急増する再生可能エネルギー出力制御と今後の見通し

認定NPO法人気候ネットワーク 上席研究員 豊田 陽介

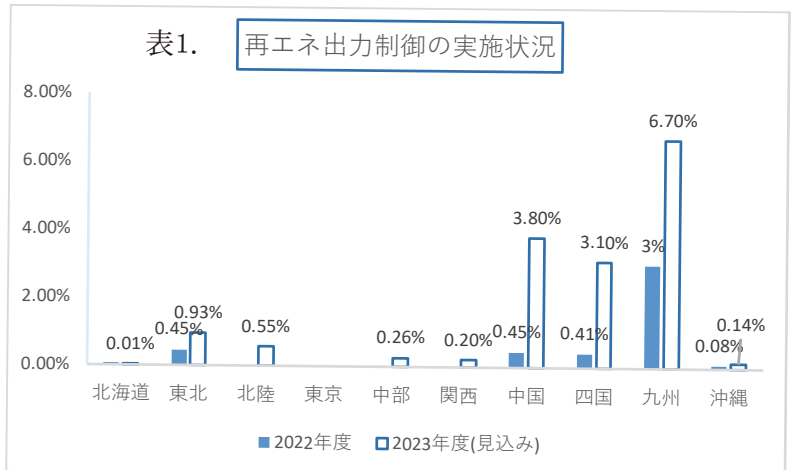
1. 再エネ出力制御の実施状況とその影響

電力供給が需要を上回ると見込まれる場合に供給安定性を確保するために再エネ発電所の運転を停止する「再エネ出力制御」は、2018年10月に全国で初めて九州エリアで行われた。その後、休日やGW等の軽負荷期に九州エリアでのみ実施されていたが、同年4月に東北、中国、四国エリア、5月に北海道エリアへと拡大した。さらに2023年には1月に沖縄、4月に中部、北陸、そして6月には関西エリアで実施され、東京都を除く9エリアにまで拡大した。さらにその頻度も2022年度に比べて、ほとんどの地域で増加している。

再エネ出力制御の実施は再エネ特措法によって定められており、太陽光発電と風力発電を対象に、「無補償」での出力制御に同意することが固定価格買取制度の認定の条件になっている。出力制御を受ける時間の上限については、当初は年間30日間が上限であったが、再エネ導入量の増加とともに拡大され、2021年4月以降からは全てのエリアで「無制限・無補償」になった。

無制限・無保証を前提に出力抑制が頻発するようになれば、再エネ事業の収益性と予見性は低下し、金融機関が融資を控えることで資金調達が困難になると予測される。また、すでに稼働している発電所においては、出力制御によって発電収入が激減し、収支が赤字になる可能性もある。

表1. 再エネ出力制御の実施状況



出所: 第49回系統WG (2023年12月6日) 資料より作成

2. 将来の見通しと再エネ出力制御対策

将来(2031年度)の出力制御の見通しとしては、北海道・東北エリアで54%以上、九州30%、中国14%以上と非常に高い出力制御率になるとの予想が出てきている。もしこのレベルの出力制御が実際されたとしたら、再エネ事業に甚大な影響が及ぶことは想像に難くない。

政府は出力制御を減らすための対策として、①デマンドレスポンスや蓄電池の導入といった需要対策、②火力発電の出力をさらに下げる(現在50%を30%に)供給対策、③地域間連系線を増強し他エリアへの送電量を増やす系統対策を中心にした「新たな再エネ出力制御対策パッケージ」を取りまとめる予定だ。これらの対策を実施した場合には、中長期的にはエリアごとに異なるものの制御率の大きかった北海道、東北、九州をはじめ、全てのエリアで低減する試算結果になっている。

しかしながら今後、大電力消費地であり受入れ先となってきた関西・中部・東京エリアにおいても再エネ導入が進むことによって十分な受電ができなくなることで、さらなる出力制御が発生することが危惧される。実際に関西電力で初となる出力制御が実施された6月4日には、中国電力エリアでは関西電力エリアへの送電が制約されたために域外送電量がマイナスになった。このことから一刻も早い、根本的な解決につながる政策の実施が政府には求められる。

3. 求められるのは優先給電ルールの見直し

現在の出力制御は、国が定めた「優先給電ルール」の優先順位に従って実施されている(表2)。再エネ出力制御はこの優先給電ルールに基づき実施されているわけだが、そもそもこの優先順位の付け方や運用ルールに大きな問題がある。再エネよりも優先されている原発や、出力抑制は受けるが50%の発電は認められている石炭火力は、技術的に困難だから出力制御が制限されている、と説明される。言い換えれば、起動や停止するためのコストが高い電源であるということだ。これに対して再エネは起動・停止コストが安い電源である。そのため優先給電ルールにおいては、起動・停止コストが安い再エネを石炭や原発に先んじて抑制する、つまり再エネにその負担を押し付ける構造になっているのである。

脱炭素社会への転換はもちろん、燃料価格の高騰や円安の影響によって電力価格の上昇が続く状況において、CO2ゼロで限界削減費用の安い再エネの発電を止めてしまう=電力を捨ててしまう再エネ出力制御は、著しく経済性・合理性を欠く行為であると言える。

再エネに対する出力制御は、日本よりも再エネが進んでいる欧州の国でも行われている。しかしながらこれらの国では、再エネからの電力は優先接続・優先給電ルールに基づき再エネ電力の系統への接続や市場への優先アクセス等が保証されている。それでも出力制御を実施した場合には、発電事業者に対して補償金が支払われる制度になっている。

今後の再エネ大幅導入、再エネ100%の達成のためには、日本の非合理的な優先給電ルールを見直し、再エネ優先給電(①連系手続きにおける優先、②市場への優先アクセス、③混雑時の優先アクセス)のための制度・ルール及び技術、それを公平・公正に運用する各種主体の実現が求められる。

表3. 優先給電ルール

優先給電ルール	
出力制御等の順番	1 一般送配電事業者があらかじめ確保する調整力(火力等)(電源Ⅰ)及び一般送配電事業者からオンラインでの調整ができる火力発電等(電源Ⅱ)の出力抑制及び揚水式発電機の揚水運転
	2 一般送配電事業者からオンラインでの調整ができない火力発電等(電源Ⅲ)の出力抑制
	3 連系線を活用した広域的な系統運用(広域周波数調整)
	4 バイオマス専焼電源の出力抑制(地域資源バイオマス電源*を除く)
	5 地域資源バイオマス電源の出力抑制(燃料貯蔵や技術に由来する制約等により出力抑制が困難なものを除く)
	6 自然変動電源(太陽光・風力)の出力抑制
	7 電気事業法に基づく電力広域的運営推進機関の指示(緊急時の広域系統運用)
	8 長期固定電源(原子力、水力(揚水式を除く)および地熱発電所)の出力抑制

*地域に賦存する資源(未利用間伐材等のバイオマス、メタン発酵ガス、一般廃棄物)を活用する発電設備
出典:送配電会社HPから筆者作成

〈COP28参加報告〉 脱化石燃料に向けて国際社会が一步を踏み出す

認定NPO法人気候ネットワーク 田中 十紀恵

昨年12月にアラブ首長国連邦のドバイで開催されたCOP28に現地参加しました。今回のCOPでどんなことが話され、合意されたか報告します。

●化石燃料時代の終わりの始まり

COP28で最も注目されたのは、世界全体の気候変動対策の進捗を評価するグローバル・ストックテイク(GST)です。GSTの結果を受け、各締約国が2035年までの温室効果ガス削減目標(NDC=国が決定する貢献)を提出するため、削減目標の強化に向けた具体的な指針を示すことが期待されていました。

終盤までもつれ込んだ論点の一つが、COPで初めて「化石燃料の廃止」に合意できるかどうかでした。多数の国が全ての化石燃料の廃止または削減に賛同していたにもかかわらず、石炭火力削減に言及したグラスゴー気候合意(2021年)からも後退する合意案が出た時には、小島嶼国連合(AOSIS)が「私たちは死亡診断書にサインできない」と厳しく批判するなど、最後まで緊迫した交渉が続きました。

会期を一日延長し、夜を徹した交渉が行われた結果、「エネルギーシステムにおける化石燃料からの脱却」や「再エネ3倍、省エネ2倍」などが合意されました。「化石燃料の廃止」とはなりませんでしたが、産油国が「化石燃料」の文言を入れること自体に反対したことを考えると、今回の合意は、サイモン・スティールUNFCCC事務局長が述べた「化石燃料時代の終わりの始まり」につながる重要な一歩です。それでも、海面上昇の危機が迫るサモアが妥協の合意では不十分であると訴える場面もありました。GSTの結果を踏まえ各国が野心的なNDCを提出することはもちろん、今後のCOPで化石燃料の廃止に向けた議論を継続し、合意を確実に実行していくことが求められます。

●損失と損害基金の運用が決まる

COP27で設立が決まった「損失と損害基金」は、その運用方法について、会議初日の開会式で採択されました。会議初日の採択は、COPの歴史でも異例のことです。課題は残っているものの、この問題が提起されてから30年、ようやく損失と損害に対処するための基金の運用化にこぎつきました。気候正義にもとづき、気候変動による損失と損害に直面している人々のニーズに沿った資金支援が実施されるようになることを期待しています。



●市民社会がCOPで訴えたこと

COP28には世界各国のNGO・市民社会からも多数参加し、主に「公正、迅速、完全な化石燃料の廃止の実現、そのために十分な資金が提供されること」、そしてパレスチナのガザで多くの市民が犠牲になっていることを受けた「ガザの停戦」の2つを訴えかけました。

12月9日には会場内で大規模な気候マーチが開催され、参加者はパレスチナの抵抗の象徴であるスイカを描いた旗や、化石燃料廃止を訴えるバナーなど、さまざまなメッセージを掲げ会場を行進しました。また、交渉の最終盤にはユースを中心に、化石燃料廃止を求め、会議場の前で手をつないで「人間の鎖」を作ったり、バナーを掲げて立つ姿は多くの交渉官の目に止まったでしょう。こうした声が、上記の化石燃料に関する合意に与えた影響は大きかったと思います。

●地域からの活動がますます重要に

今回のCOP合意で、化石燃料から脱却し再エネ中心の社会へ移行するという方向性が示されました。一方で、全ての締約国の合意が必要なCOP交渉で、気候変動対策を一気に前進させることへの難しさも見えました。そのため、市民、自治体、企業などが自ら気候変動を食い止めるアクションを行い、自国の政府に対し気候変動対策を強化することや、より野心的なCOP合意を求めていくことがますます重要になっていると感じています。



日本政府は残念なことに、COP28でも2回「本日の化石賞」を受賞しました。気候危機が深刻化するなか、日本が石炭火力依存から抜け出せないことに世界の市民社会から厳しい目が向けられています。きょうとグリーンファンドのような、地域での再エネ普及の活動が広がっていくことが、日本の現状を変える大きなうねりとなることに期待しています。



小倉 香住

●2023年12月2日(土)ウトロ平和祈念館おひさま発電所見学会に参加しました。

きょうとグリーンファンドのWEBサイトでこの発電所について知ったとき、「いいな」と思っていたので、見学会をすぐ楽しみにしていました。

まず、きょうとグリーンファンドさんから、きょうとグリーンファンドや市民再エネプロジェクトの説明と、発電所がどのような経緯でつくられたかを聞きました。

平和祈念館を建てるにあたり、設計の段階にも太陽光の話はあったのですが、具体的に話が進まなかったそうです。その後、「ここに太陽光があつたらいいね」との声があり、阿部さんが平和祈念館の事務局長でもあったことから話が進み、「設置しよう」となったそうです。やはり、誰かの「こうだったらいいね」が必要なのだと思いました。

そして、ウトロ平和祈念館の館長、田川明子さんから話を聞きました。いつも在館しているわけではないのですが、この日はたまたま話を聞くことができました。

田川さんは、ウクライナやパレスチナで起こっていることに触れた後、「いつも争いごと(の影)に燃料がある。誰とは、誰とはわからないが、天然ガスのパイプに穴を開けた。戦争の武器に燃料がある。」「ウトロは戦争で生まれた町。その町から、太陽光で電気をつくり、いざという時は地域の人と使える、役に立てる。ささやかなことだけれども、ものごとは、ささやかなことから始まるんじゃないかと思っている」と、ゆっくり染み入るように話しました。思い起こして書いていても涙が出るくらい感動しました。

太陽光発電(再エネ)は、もう戦争の原因をつくらないという平和への願いのエネルギーでもあることがよくわかりました。お話を聞くことができ、この見学会に参加して本当によかったと思っています。

そのあと、太陽光パネル設置の実務をされた林敏秋さんからの説明を聞きながら、建物裏にある蓄電池や屋上のパネルを見学しました。「触れる太陽光パネル」であり、近くで見ることにより親しみを感じました。

屋上から見える風景の説明もききました。写真の左上に中学校の校庭が見えます。ウトロ地区がある場所も元々はこの高さがありました。戦争中に京都飛行場建設用土として、このブロック塀の高さ分の土が削られた後の土地に、建設作業員の飯場が置かれました。

土地の姿を変えるような国策による工事を目の前にし、福島県飯館村の飯館電力を視察した時に見た、汚染土の遮へい土に使うために、山の半分が削りとられた景色を思い出しました。化石燃料や原子力という大きなエネルギーの犠牲は、もう、つくりたくありません。

●環境活動のこと

私は、2016年に電力小売り全面自由化が始まってすぐ、加入している生協の電気に切り替えました。チョルノービリ原発事故、東京電力福島第一原発事故を経験したことから、原発のいらぬ社会にしたいと、市民発電所や電力会社までつくった組合員たちの「原発をもつ大手電力会社への支払いをやめる」という穏やかでありながら有効かつ力強い行動に共感したからです。

今は、その生協の「生活クラブエナジー」という電力会社に切り替える組合員を増やす活動をしています。まずはつかうエネルギーを「へらす」、そして再エネを「つくる」、つくった再エネをみんなで「つかう」ことが必要と、日々活動しています。仲間とは、2012年ごろのFIT制度を前提に増えた再エネから、今は地域の困りごとの解決策としての再エネに変化してきている。これからの発電所づくりはそうしたことを意識しないとなどと話あっています。

昨年は、「自然エネルギー学校きょうと」に参加し、きょうとグリーンファンドの会員にもなりました。学ばせてもらいながら、どうか大阪に「生活クラブでんき」の電源となる太陽光発電所を増やして、持続可能な地域社会をつくっていきたくと思っています。これからも、きょうとグリーンファンドの開催する見学会などに参加しようと思っています。よろしくお祈りします。





●地球沸騰化の時代に子どもたちと・・・

京都自然教室 岡 かおる

数年前から「きょうとグリーンファンド」の環境学習で自然観察のお手伝いをしています。保育園や幼稚園の子どもたちと一緒に府立植物園や京都御苑をお散歩しながら、いろんな花や虫を見つれたり葉っぱやドングリで遊んだり。目線の低い子どもたちは次々といろいろなものを発見してくれるので、いつもこちらが楽しませてもらっています。

そんな御苑の一角に、2年ほど前に「雨庭」というものができました。雨庭とは屋根や水が浸透しない舗装面などに降った雨水を、直接下水道に放流するのではなく一時的に窪地に集め、ゆっくりと地中に浸透させる仕組みを持つ緑地のことです。グリーンファンドでは昨年度、環境学習で「雨水タンク設置ワークショップ」を実施されたそうですが、アスファルトやコンクリートで覆われた都市部での雨水の利用は、水やエネルギーの節約はもちろん、洪水やヒートアイランド現象を防ぎ、豊かな緑を育てるためにもとても大切です。ちょっと調べてみたら、枯山水の庭園にも雨庭と同じような機能があることがわかったそうです。上京区にある相国寺では、「雨が降っても庭園に水があふれたことがない」と伝えられることから調査が行われ、850ミリの雨（日本の年間平均降水量1,600ミリの約半分）が降っても処理できる可能性があるという結果が出たとか。室町時代にできた庭園がそんな防災機能を備えているとは驚きです。京都駅ビルや大学のキャンパス、公園や交差点など、市内にはいくつもの雨庭を見ることができます。近ごろは雨水タンクを設置した商店街を目にすることもあります。私の家でも、雨樋に専用の簡単な装置をつけて水瓶にため、水やりに利用できて重宝しています。



子どもたちとお散歩する植物園の横には鴨川が流れ、カモやカワセミなど、いろいろな鳥を見ることができます。川の中洲では、チドリという小さな目立たない鳥が子育てをする姿も見られます。しかし近年のゲリラ豪雨によって川の水が増水し、毎年卵やヒナが流されて、ヒナはほとんど巣立つことができなくなっています。あちこちに小さな雨庭がたくさんできれば、自然の持つ機能を使って洪水や温暖化を和らげるしくみ、グリーンインフラになります。そうして、私たち人間だけでなく、小さな生き物たちの生きる場を守ることにつながればと思います。

今年度は、昨年5月にコロナが5類に引き下げられたこともあり、コロナ前の申し込み数（約17件）に近づき14件になりました。

きょうとグリーンファンドでは、常々、環境学習に園の先生方を巻き込んでいきたいと思っています。

その方法として、環境腹話術では、毎回、3、4人の園の先生に、自身の生活の中での省エネの工夫（自動車ではなく、できるだけ自転車を使う。無駄な買い物をしない。等）を発表していただいたり、園に設置されている「おひさま発電所」（CO2を出さない発電所）のことをお話していただいたりしています。子どもたちは、自分たちの先生が話すことで、より身近なこととして感じているようです。先生方も発表することによって、改めてエコや「おひさま発電所」を意識しなおす機会となっています。講師をお願いしている畠山さんとの話し合いで、次年度はグリーンファンドのパペット「ぐりにゃん」を登場させ、内容も深化させることにしました。



自然観察会では園の先生方を対象とした職員研修としての観察会やネイチャーゲームを行いました。この研修で得たことを、園での自然環境教育に活用していただいています。保護者も一緒に自然観察会も行い、親子で楽しめたという意見を多数いただきました。次年度は、講師もますます充実する予定ですので、今後もこのような機会を増やしたいと思っています。



（きょうとグリーンファンド 深川佳子・山本照美）

・・・佐々木 真由美

レターへの寄稿依頼が来たのは、昨年(2022年)の12月の中旬のこと。お正月休みに書こうと思っていたが、元旦早々にとんでもない地震が起きた。住んでいる宇治でも思わず食卓の下にもぐりこんでしまうほどの揺れで1分間がとても長く感じられた。そして真っ先に思い浮かんだのは原発のことだった。わたしが大手電力会社からおひさま電気に契約を変えようと思ったのは、福島事故が起こったからだ。原発でつくった電気を使うのはもうやめようと強く思った。誰かの犠牲の上に立った便利さなんか要らないと思った。

わたしは元々、知る人ぞ知る省エネ人間だ。電気代は1年を通して3千円から4千円台。厳しい暑さだった昨年の夏も結局一度もクーラーをつけることはなかった。今住んでいる古い家がとても風通しがよくて、夏場でも外から帰ると家の中がひんやりと感じることが多かった。冬も同様に、一度入ると動けなくなってしまうのでコタツは出さないことにしているし、石油ストーブ一台で過ごしている。そのストーブの上にはいつも湯気を出すヤカンか、ぐつぐつと煮込んでいる鍋が乗っている。牛すじや塊の肉でもトロトロにやわらかく煮えるし、冷蔵庫にありっただけの野菜を放り込んで煮込んだ野菜スープはさまざまな料理のベースとなり重宝する。そして何より、わたしはこの生活がとても気に入っている。

きっかけは、おひさま発電所・・・

・・・北川 完二(上鳥羽エコまちくらぶ)

私は10数年前から、京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター(以下、センター)でアドバイザーとしてお手伝いをしてきました。そんな中、2016年にセンター屋上に地域住民を中心に多くの方からの協力や寄付をいただき、認定NPO法人きょうとグリーンファンドの協力も得て「上鳥羽北部いきいきおひさま発電所」が設置されました。

センターでは、設置以前よりエコロジーの啓発活動を行っていましたが、おひさま発電所の設置をきっかけに、センターのエコ活動も「エコ体験イベント」、「ロケットストーブ製作」、「自然観察会」、「夏のクールシェアスポット」などを継続的に行うようになりました。



上鳥羽北部いきいきおひさま発電所

また中唐戸児童館のエコ活動への参加やオフグリッド時計設置のお手伝いなど、他の施設との連携も深まり、益々活動の広がりを見せています。また2023年には上鳥羽を安心・安全・きれいなエコまちにするため「上鳥羽エコまちくらぶ」を立ち上げ、一緒に活動してくれる仲間「エコメイト」を募り、エコ活動をセンターの活動から地域全体の活動に広げることが目標に、今後も積極的な活動を続けていきたいと思っています。

既に遅いともいわれていますが、過去に戻れない以上、地球温暖化やゴミの問題、生物多様性の危機などの環境問題に自分の行動が影響を及ぼすことを意識せずにはいられません。

メーリングリスト「きょうとグリーンファンド応援団」登録のお願い

きょうとグリーンファンドでは情報交換用のメーリングリスト「きょうとグリーンファンド応援団」を作っています。イベントの案内やお知らせなどを流します。登録していただくと自分が案内したいイベントなどの情報も流すことができます。登録を希望される方は事務局までお名前とメールアドレスをメールでお知らせください。

編集後記

- ・2月の初めにできた、巨大な大根、キャベツ、白菜……。暖かかったので大きくなってよかった、のでしょうか。気候変動の影響は確実に身近に広がっていることを、感じます。(K.O)
- ・年明け早々に能登半島地震があり、心痛む幕開けとなりました。どうか、これ以上の事は起こりませんように…と願うばかりです。(Y.F)
- ・地域住民による地域活性化を進めている仲間がいます。これからの活動に環境関連もできればと思っています。(T.Y)
- ・寒さが苦手な冬は、使い捨てカイロを愛用してました、ゴミが気になるので、眠っていた、燃料充填式カイロを復活させましたが、どちらも、環境負荷があります。寒さに負けない、体質改善したいと思います。(Y.M)
- ・いま地下水が危ない。有機フッ素化合物(通称PFAS・ピーファス)が地下水から検出されている。自衛隊の基地や半導体工場から検出されることが多い。世界的な環境問題として注目を集めている。(T.H)
- ・お正月気分も吹っ飛ばす大災害、志賀原発が止まっていたのが、せめてもの救い。この国はこうも過去の教訓に学ばないのでしょうか。地震大国日本に原発はムリ…(S.K)

《 ぐりふぁん日誌 》

<2023年>

- 8/19 自然エネルギー学校・京都第3回／京エコロジーセンター
上鳥羽北部いきゼン「エコ体験イベント」参加
／上鳥羽北部いきゼン
- 8/23 上鳥羽北部いきゼンエコまちくらぶ
「オフグリッド時計設置イベント」参加／中唐戸児童館
- 9/13 ワタシのミライ「スタンディングアクション」参加
- 9/23 自然エネルギー学校・京都第4回／京エコロジーセンター
- 9/27 JICA課題別研修「脱炭素で持続可能な都市・地域開発
のための自治体能力強化」自然幼稚園見学
- 10/6 市民再エネプロジェクトin京都ミーティング／オンライン
- 10/7 Fridays For Future Kyoto「あなたと999人の気候マーチ」
参加
- 10/8 サークルおてんとさん「10周年を祝う会」参加
／奈良ロイヤルホテル
- 10/25 自然観察会(大宮保育園)／府立植物園
- 10/31 自然観察会(聖光幼稚園・年長組)／宝ヶ池
11/2 自然観察会(聖光幼稚園)・年中組)／宝ヶ池
- 11/2 京都市行財政局入札参加資格更新
- 11/4 自然観察会(みょうりんえん)／京都御苑

- 11/11 自然観察会(上鳥羽北部いきゼンエコまちくらぶ)
／上調子公園
 - 11/18 自然観察会(陵ヶ岡こども園)／京都御苑
市民共同発電所全国フォーラムエクスカージョン「ウトロ平和
和祈念館おひさま発電所見学会」
 - 11/19 市民共同発電所全国フォーラム参加／龍谷大学
 - 11/27 環境腹話術／夢窓幼稚園
 - 12/1 吉川商店おひさまプロジェクト設置協力金返済
 - 12/2 ウトロ平和祈念館おひさま発電所見学会
 - 12/6 テラエナジー株式会社来室
- <2024年>
- 1/11 京都中小企業家同友会訪問／経済センター
 - 1/16 京都府温暖化防止活動推進連絡調整会議・温暖化防止
センター20周年記念イベント出席／京都プライムホテル
 - 1/19 第146回理事会
 - 1/23 ウトロ平和祈念館おひさま発電所見学会
(NPO法人 あまこ市民エネルギープロジェクト)
 - 1/24 上鳥羽北部いきゼン訪問
 - 1/31 聖光幼稚園おひさま発電所見学会

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によってささえられています。おひさま基金へのご支援をお願いします。

◆ ゆうちよ銀行

ゆうちよ銀行振替口座番号：00930-6-157817 加入者名：きょうとグリーンファンド

◆ オンライン寄付サイト Give One

クレジットカードによる寄付ができます。

「わたしのまちに太陽光発電～寄付で自然エネルギー」



◆ ソフトバンクつながる募金



携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクユーザー以外の方でもクレジットカードによる寄付ができます。

★詳細はきょうとグリーンファンド HP 「入会・寄付のご案内」
をご覧ください。 <http://www.kyoto-gf.org/donate/donate.html>

★2020年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定
されました。認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の
対象になります。

会員数

正会員 35 賛助会員 28

法人会員 7 2024 / 2現在

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)



〒600-8191 京都市下京区五条高倉角堺町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; <http://www.kyoto-gf.org> (火～金 13:00～16:00)

